

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 12 日現在

機関番号：82705

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2013

課題番号：22531080

研究課題名（和文） 特別支援教育におけるキャリア教育の充実を図るための研修パッケージ開発

研究課題名（英文） Development of a Workshop Package for Fulfillment of Career Education on the Special Needs Education

研究代表者

菊地 一文 (KIKUCHI Kazufumi)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・教育情報部・主任研究員

研究者番号：80509141

研究成果の概要（和文）：本研究では、国立特別支援教育総合研究所が作成したキャリア発達段階・内容表（試案）を基にした諸ツールを活用し、キャリア教育に関する研修パッケージを開発することを目的とした。まず、教員を対象とした調査を通じてキャリア教育の認知度及び研修ニーズの把握と研修パッケージの全体構造を検討するための知見を得た。次いで、特別支援学校を対象とした調査により教育現場におけるキャリア教育の認知度と推進上の課題を明らかにした。さらに、特別支援学校及び特例子会社等の訪問による情報収集を行ったほか、Web サイトを通じて全国の教職員と意見交換した。並行して、研修パッケージの内容を研究協力者と検討し、上記諸ツールを活用した研修会を三年連続で施行、参加者の9割強から肯定的評価を得た。以上の活動を通じ、キャリア教育の組織的推進のための方策に関する知見を得た。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a career educational training package by utilizing various tools based on Table of Stage and Contents of Career Development (draft) prepared by National Institute of Special Needs Education. First, through a questionnaire survey targeting teachers, we comprehended the awareness of career education and the needs for training and obtained knowledge to examine the whole structure of the training package. Next, by a questionnaire targeting schools for special needs education, we clarified the awareness of career education in the fields of education and tasks in its promotion. Moreover, we exchanged opinions with school employees nationwide via Internet while collecting information by visits to special needs education schools, special subsidiary companies. In parallel, we examined the package details with study cooperators, conducted workshops based on the abovementioned tools for three successive years, and gained positive evaluations from more than 90%. From the above, we could obtain certain knowledge on organizational promotion measures for career education.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：特別支援教育

キーワード：キャリア教育、研修パッケージ、特別支援教育

1. 研究開始当初の背景

我が国における教育施策の審議等の中で「キャリア教育」の文言が初めて明記されたのは「初等中等教育と高等教育との接続の改

善について」(H11.12 中教審答申)であり、バブル崩壊後の若者の離職や不就業等の問題の解決方策として採り上げられた。我が国のキャリア教育の理論的枠組みと例として

示されたのは、国立教育政策研究所生徒指導研究センターによる「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」であり、通常教育においてはこの理論的枠組みを基にした取組が進められている。

特別支援教育においては、知的障害者である児童生徒を教育する特別支援学校の各教科である小学部の生活科や、中学部の職業・家庭科等が学習指導要領に位置付けられており、従来からキャリア教育の考えを踏まえた指導内容が系統的に配置されているが、進路指導等の一貫性・系統性の問題から通常教育と同様に不就業者や離職の問題等が課題となっている。

改訂された特別支援学校学習指導要領総則にキャリア教育の文言が明記され、生徒自身の主体的なよりよい進路選択の実現のためにも、各学校における教育課程や個別の教育支援計画の充実を図り、キャリア教育の視点から改めて教育活動全般における一貫性・系統性を確保することや家庭及び関係機関との連携を十分に図りながらキャリア教育を推進していくことが求められている。

しかしながら、キャリア教育推進上の課題として、特別支援教育におけるキャリア教育の意義や定義の明確化、特別支援教育におけるキャリア教育に関する研究知見の少なさ、キャリア教育理解・推進にあたっての具体的なツールがないことの三点が挙げられる。

2. 研究の目的

特別支援学校高等部学習指導要領総則において「キャリア教育」の文言が位置付けられ、特別支援教育においては指導内容の一貫性・系統性の課題を改善する視点としてキャリア教育への注目が高まってきている。しかしながら、特別支援教育においてキャリア教育として取り組むべき実践内容や充実を図るための具体的な指導方法についての研究・論文は、学校現場における実践研究がわずかにあるだけで、情報が限られている現状にある。そこで本研究では、この課題への対応として、国立特別支援教育総合研究所が作成したキャリア発達段階・内容表(試案)を基にした①PDC Aサイクルにより授業及び教育課程における指導内容の一貫性・系統性を見直し、改善を図るツール②個別の教育支援計画の本人の願い欄をベースとした他機関との連携・協働ツール等で構成される、キャリア教育に関する研修及び推進パッケージを開発することを目的とする。そしてパッケージの導入による成果と課題について検証し、特別支援教育におけるキャリア教育の充実及び関係諸機関の連携・協働による障害のある人の生涯に渡る包括的な支援によるQOLの充実に寄与することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法により研究を進める。

(1) キャリア教育に関する研修ニーズについての質問紙調査

全国の特別支援学校の教員を対象とした質問紙調査によって、特別支援教育におけるキャリア教育の認知度及び実施状況、推進上の課題等を把握した。

対象：全国の特別支援学校の教職員

回答方法：キャリア教育の研修会終了後、調査票を配布し、回収した。

質問事項：キャリア教育の認知度、実践内容、各学部(事業所)において重視したいキャリア教育の観点、各学部(事業所)において実際に指導しているキャリア教育の観点、個別の教育支援計画の「本人の願い」欄の記述方法等

分析方法：障害種別、学部別、障害の程度別等によるキャリア教育の捉えの差異等

(2) キャリア教育の推進状況に関する質問紙調査

全国の特別支援学校(悉皆・分校分教室を含む)に対し、質問紙調査を行うことで、特別支援教育におけるキャリア教育の認知度及び実施状況、推進上の課題等を把握した。

対象：全国の特別支援学校

回答方法：郵送法

質問事項：キャリア教育の認知度、推進状況、推進にあたっての課題、各校における特色ある取り組み等

分析方法：障害種別、学部別、障害の程度別等によるキャリア教育の捉えの差異等

(3) キャリア教育の取組に関する情報収集

全国の特別支援学校及び障害者雇用を進めている企業(特例子会社等)を訪問し、情報収集を行った。また特別支援教育におけるキャリア教育推進のためのWebサイトを設定し、全国の関心ある教職員、コーディネーター、研究者等に本研究で得た知見のアウトリーチを行うほか、相補的に情報交換した。

(4) 特別支援教育の充実を図るためのキャリア教育研究協議会の開催

本研究の前研究として位置付く、国立特別支援教育総合研究所平成20~21年度専門研究B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」で開発した諸ツールをベースとした演習を含む研修会を毎年1月に施行する。参加者はキャリア教育推進者を中心に全国から募った。

(5) キャリア教育の評価方法の開発

障害のある児童生徒を対象としたキャリア教育の推進及び評価に関する情報を収集し、知見を整理した。これらの情報を基に評

価方法について検討するとともに第50回日本特殊教育学会（筑波大学）においてキャリア教育の評価をテーマとした自主シンポを企画し、協議を行った。

4. 研究成果

(1) キャリア教育に関する研修ニーズについての質問紙調査

2010年8月～10月の間に、全国11都県（青森県、岩手県、茨城県、東京都、静岡県、愛知県、福井県、岡山県、島根県、高知県、宮崎県）におけるキャリア教育に関する研修会を通して、教員を対象とした、キャリア教育に関する研修ニーズについての質問紙調査を実施し、1161件の有効回答を得た（回収率80.5%）。

回答を集計した結果、キャリア教育推進上の課題の上位に挙げられたものは「キャリア教育の定義及び意義の共通理解(712)」、「キャリア教育の具体的な実践イメージ(727)、学校全体としての組織的取組(464)であった。

次いで、回答者の日頃の指導をキャリアの4つの領域で捉え直した場合、どの領域を重視しているかを1～5点で数値化を求めた結果、平均及びSDは人間関係形成能力4.53(0.66)、情報活用能力3.67(0.90)、将来設計能力3.49(0.92)、意思決定能力3.92(0.88)であった。

また、キャリア教育の研修会で取り扱った内容について上記同様に数値化を求めた結果、①キャリア教育の実践事例4.42(0.74)、②キャリア教育推進のための具体的方策やツールの活用方法4.35(0.77)、③キャリア発達段階・内容表の概要4.03(1.77)、④キャリア教育の意義及び必要とされる背景3.92(0.85)、⑤キャリア及びキャリア教育の定義3.84(0.90)であった。

以上を踏まえると、研修ニーズについては、全体的に高い傾向が認められ、その中でも実践事例や具体的な方策をより重視していることがわかった。今後は、より学校が組織的に取り組み、実践の充実を図るための具体的な研修ツール等が求められるといえる。

なお、本調査結果については、日本特殊教育学会第49回大会（弘前大学）でポスター発表及び自主シンポジウムを通して報告した。また、本調査の結果と後述の研究協議内容をふまえ、ニーズの高かったキャリア教育の実践事例と組織的取組例について、特別支援教育関係雑誌の連載及び特集等で紹介した。これらは「特別支援教育充実のためのキャリア教育ケースブック」としてまとめた。

(2) キャリア教育の推進状況に関する質問紙調査

2011年12月～2012年2月の間に、特別支援学校（悉皆・分校分教室を含む）を対象と

して、キャリア教育の認知度、推進状況及び課題に関する質問紙調査を実施し、698件の有効回答を得た（回収率63.8%）。

キャリア教育の認知度については「新学習指導要領に位置付けられたこと」において、ほとんどの教員は知っている180(26%)、多くの教員は知っている255(37%)、約半数の教員は知っている124(18%)、「キャリア教育の定義」において、ほとんどの教員は知っている106(16%)、多くの教員は知っている264(38%)、約半数の教員は知っている157(22%)など、キャリア教育における基礎知識は広く浸透していることが明らかとなった。

しかし、キャリア教育のコア概念である「コンピテンシー」に関して、ほとんどの教員は知っている13(2%)、多くの教員は知っている50(7%)、約半数の教員は知っている58(8%)「ライフキャリア」が、ほとんどの教員は知っている55(8%)、多くの教員は知っている160(23%)、約半数の教員は知っている163(23%)となる等、キャリア教育に関する知識の共有は過渡期にあることが窺われた。

研修ニーズについては、最も重視していると回答されたのが、実践事例231(33%)や具体的方策245(31%)であり、意義と背景168(24%)、定義157(22%)に比べて、より実践的なノウハウが求められていることがわかった。これは先のキャリア教育に関する研修ニーズについての質問紙調査とも一致するものであった。

なお、本調査結果については、日本特殊教育学会第50回大会（筑波市）でポスター発表を通して報告した。

(3) キャリア教育の取組に関する情報収集

キャリア教育研究に取り組んでいる特別支援学校（知的障害、肢体不自由）及び障害者雇用を積極的に進めている企業及び特例子会社を訪問し、キャリア形成支援及び人材育成の実践について情報収集を行った。具体的には、北海道小樽高等支援学校、ごうぎんチャレンジドまつえ等を訪問した。実際に見学、意見交換することにより、高等特別支援学校や企業における、障害のある人のキャリア形成支援の工夫点や課題について情報を得ることができた。

また、他の障害種の特別支援学校におけるキャリア教育に関する資料収集を行った。また、本研究に関するWebサイトを通して、全国各地の登録メンバーよりキャリア教育の推進に関する情報収集及び意見交換を行った。また、収集を続けている各校におけるグッドプラクティス等の情報をWebサイト内のデータボックスに収納し、公開している。

Webサイトの登録者数は182人、アクセス数25625件（2013年3月12日現在）にのぼり、研修会後のフォローアップの場としても

機能している。

(4) 特別支援教育の充実を図るためのキャリア教育研究協議会の開催

研修パッケージの内容について、研究協力者と検討し、本研究の前研究として位置付く、国立特別支援教育総合研究所平成 20～21 年度専門研究 B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」で開発した諸ツールをベースとした演習を含む研修会を 3 年連続で企画・実施した。

参加者は第 1 回より 45 名、60 名、110 名と年々増加した。参加者の内訳は特別支援学校教員及び管理職、指導主事であり、参加者から、ツールの活用及び演習に関する意見・感想や、各地の推進状況に関する情報、今後の推進方策に関する知見を得た。一例として、第 3 回は、二日間の日程をとり、有識者によるパネルディスカッション、立教大学大学院特任教授の渡辺三枝子氏による講演、参加者が任意で発表できるポスターセッション、全参加者を問題意識ごとにグルーピングした研究協議を行い、推進上の課題の明確化や、具体的な解決方策を確認できた。

参加者は自校の取り組み等を詳述したレポートを事前に求められることもあり、それぞれが高い意識で研究協議会に臨んでいた。事後アンケートの結果も、毎回 9 割強の参加者が肯定的に評価し、「次も参加したい」と回答していた。

これらの知見を総合的に整理するとともに研修パッケージに関する評価を求めた結果、キャリア教育を推進していく上での課題とその解決方策のポイントとなる事項について整理することができた。

さらには、第 3 回研究協議会の終了後、本会を発展させる形で、キャリア発達支援研究会を発足させることを確認した。

(5) キャリア教育の評価方法の検討

キャリア教育の評価の目的は、取組を見直し改善するためのものであることを前提に、評価の対象が教員や学校、地域といった環境側である場合、アウトプット・アウトカムの視点が重要であることが確認された。また、児童生徒を対象とする場合、物事の向き合い方の変化を重視し、丁寧に把握していく必要性が確認された。さらには評価を活用することによって児童生徒のキャリア発達を促す可能性についても検討した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

(1) 菊地一文、特別支援教育における ICF の

活用によるキャリア発達支援の可能性. 国立特別支援教育総合研究所研究紀要、査読有、Vol. 40、2013.

(2) 菊地一文、発達障害のある児童生徒及び学生のキャリア教育. 発達障害研究、33 巻 3 号、2011.

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) 菊地一文、松為信雄、杉中拓央、特別支援学校におけるキャリア教育の現状と課題に関する実態調査(1)(2). 日本特殊教育学会第 50 回大会論文集、2012.

(2) 菊地一文、松為信雄、木村宣孝、大崎博史、渡部英治、特別支援教育におけるキャリア教育の認知度及び研修ニーズに関する調査研究. 日本特殊教育学会第 49 回大会論文集、2011.

〔図書〕(計 1 件)

(1) 菊地一文、特別支援教育充実のためのキャリア教育ケースブック. ジアース教育新社、2012.

〔その他〕

(1) 菊地一文、現在と将来を「つなぐ」視点で「学び」の意味を問い直す. 実践障害児教育、Vol. 470、学研教育出版、2012.

(2) 菊地一文、キャリア教育の視点で見直す—子どもの「なりたい自分」を学校・地域で支援する—. 「小学部段階はキャリア発達の土台づくりの時期」、「中学部段階は将来への関心を高める時期」、「高等部段階は夢の実現に向けてチャレンジする時期」、「企業におけるキャリア発達の支援」、「重度重複障害や肢体不自由のある児童生徒のキャリア教育」、「保護者との連携・協働および教育行政によるキャリア教育の推進」、「キャリア教育推進上の課題と今後の展望」、「キャリア発達の視点から教育活動全体を見直す(特集 論説)」、実践障害児教育、Vol. 459-465、学研教育出版、2011-2012.

(3) ホームページ等

特別支援教育におけるキャリア教育充実のための Web サイト(登録制・本研究成果のアウトリーチ・情報交換に活用)

<http://forum.nise.go.jp/career/htdocs/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菊地一文 (KIKUCHI Kazufumi)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・教育情報部・主任研究員

研究者番号：80509141

(2) 連携研究者

松為信雄 (MATSUI Nobuo)

神奈川県立保健福祉大学・教授

研究者番号 : 20383127